

宇都宮・ジャパンカップで 自転車普及PRもおこなう

十月二十四日(土)「ジャパンカップ2009」にて、オープン女子レースが開催された。レディー・ゴー・ジャパンチームからは堀 友紀代・松田千裕・吉井玲香・武田和佳・佐藤咲子という五名という大量エントリー。日曜日の国内外プロチームが出場するレースの前座レースではあるが、個人的には久しぶりのジャパンカップのオープンレース観戦ということもあり、どんな状況に変わっているのか、その辺りもレポートする。今回のRGJチーム参加メンバーで、このレース参加の



経験があるのが二名だけというところもありレース前日は早めにコース入りして試走。須藤大輔チーム監督とともに堀・佐藤・松田の三名が試走へ。コース試走では、一部苦むしている下りの危険箇所などを確認しながら、コースの特徴を頭にたたきこむ。試走から戻ったらレース受付(レジストレーション)と監督会議で確認を細かくおこなう。これはあまり海外も日本も変わらない光景。ただ、このレースでは選手も参加OKというのが大きな違い。これはオープンレースだと選手兼任監督というのも多いからなのだ。さて翌朝。ウオームアップを入念におこなって、スタート前のサインに。そのスタート地点に海外女子選手の姿が。彼女が今回、オープン女子で唯一、外人選手でエントリーしていたカナダの「Indy」選手。挨拶し、お互いにレースの健康を誓う。そして、いよいよ正午過ぎのスタートを迎える。日本女子の強豪選手たちが集まっている中、チームで五人揃っての登場はインパクト大! 残念ながらRGJチームは惜しくも完走を果たせなかったが、レース状況にゲストコメントーターとして出演の安田大サーカス・安田団長に堀選手が、熱烈に(笑)応援されていたり、吉井選手の健康が大きくオーロラビジョンに写ったりした、特に吉井選手は、あと少しの所で完走を逃したので残念であった。RGJチームのサブライヤ協賛でもあるOGKカブト様が、ウイラー・ジュッキの出展ブースを展開!ウイラー・ジュッキとは、メーカー契約選手やチーム、VIP向けに簡単な飲食を提供する場所。海外の大きいレースでは見かけるが、ここまで本格的なのは日本では始めて見た気がする。お茶をいただきつつ開発中の製品とかも、見せてもらったり。こうやって製品について気づいたことを提案するのもチーム選手の大事な仕事だ。今回は、肝心のレースで結果が出せなかったのは非常に残念であった。しかし自転車認知とともに、レースを観戦される方が、かなり多くなったことに驚いた。私が数年前、オープンレースに出場したときは、こんなに観客はいなかった気がする。特に地元・宇都宮のチーム「ブリッツェン」の活躍も観客動員に影響大だったと思う。こうやって様々なチームが活躍したりPRをおこなうことで、自転車が末永く文化として根付くように活性出来るお手伝いを、RGJチームでは今後もおこなっていきます。

上・レースの後もRGJ選手たちには「お仕事」がある。自転車レース、特に女子レースの素晴らしいところをアピールするためにレース会場のイベントブースでPR活動。今回はハロウィン・パーティーで登場。レース中にたくさん、応援してください。安田団長にも挨拶。左よりRGJ佐藤・松田、そして安田団長を挟んでRGJ堀・吉井・武田各選手、右・カナダの「Indy Tuiloch選手」ともに撮影のRGJチーム出場選手たち



冬の自転車レース シクロクロスの魅力 力とRGJ選手達

十一月二十日に発売された月刊サイクルスポーツ(八重洲出版)の十二月号にて、「シクロクロスが大特集されている。シクロクロスが大々的にフィーチャーされるだけでも感激であるが、内容を読んでさらにビックリした。その特集記事の中で注目の記事内では、ロードではレディー・ゴー・ジャパンのチーム員であることも掲載されている。実はRGJチーム所属選手のうち、シクロクロスに武田選手は「ARRA IMMURACA」として参戦、福本千佳選手も「Ready Go TAPPA大阪履正社」として参戦している。武田選手のお世話になるRGJ提携クラブチームでもある「ARRA IMMURACA」は元々、シクロクロスの名門チームであり、福本選手も、RGJチーム加入前から関西シクロクロスを中心に参戦し、好成績をあげている。双方ともに先輩達から良い刺激を受けながら、各地シクロクロスの魅力を探してきてほしい。私が初めて出場したオランダのシクロクロス・「ジュニア」というカテゴリーは、シクロクロスの中で最も活躍に初めてUCI公認レースでは二人には「日本ジュニア」になった重要なレースで、ア女子選手初のシクロクロスであった。そこに身の程知らずの實力不足である私だが、当時からトップ選

手であつた。世界選手権の日本代表選手として、私が初めて出場したオランダのシクロクロス・「ジュニア」というカテゴリーは、シクロクロスの中で最も活躍に初めてUCI公認レースでは二人には「日本ジュニア」になった重要なレースで、ア女子選手初のシクロクロスであった。そこに身の程知らずの實力不足である私だが、当時からトップ選

シクロクロスに挑むRGJの武田和佳(上)と福本千佳(右)両選手の勇姿

撮影 福本 範子